

も、奴隸の性格の故に、そこに幸福があつたとは信ぜられぬ。秘密結社——青帮の組織されたのは、かうした社会状況の所産でもある。かゝる結社こそ中国人の不抜の生命力を看守すべきであらう。

さて木蘭が行方不明になつた時、彼女の伯父は涪州から德州迄運河に沿つて歩き廻り、到る所の茶店を木蘭を捜す爲の貼札をして居る。又德州では旅館酒店並呉服店飛脚などが會姚兩家や青帮等によつて利用されてゐる。かうした運河に附随して發達した商業は現今に於ても相當盛であつて、殊に濟寧の如きは運河の兩岸に面して數百の店が軒をならべ、食料衣服藥品船具等の船頭相手の日常百貨が賣られてゐるのみでなく、夜は露店の夜店が繁盛して居る。そして城内の如きは、運河町と比較ならぬ賑を振てゐる。勿論今日では運河町は日々不振となりつゝあるが、清朝以前は聊城臨清德州等、山東の主要な都市は皆かゝる種類の町であつた。前資本主義社會に於て、政府の重農抑商政策に拘らず、常に太るのは商業金融業であるが、政府が運河の爲に抑々莫大なる富が、自ら流れつゝ先は運河都市であつたから、この現象を見るのも當然であつた。

此に反して、運河が一般民衆に及ぼした迷惑は大したものであつた。前記の如く船夫涿夫泉夫涸夫その他河夫として、徴集される人は數千の多數に上る。田園の上奏によれば、明代以來河夫は土地四十畝と銀若干を給せられ、又涸夫は四六時中使はれると言ふ理由で——同時に使ふ處は——房屋二間をも給せられてゐた。だが河夫は毎日その職務に従ふのであるから耕す暇はなく、假に親兄弟があつたとしてもその田が彼等の住居から遠かつたり、又耕作不能の荒地であつたりして、實際上役立たぬ場合も多かつた。百%役立つたとしても、四十畝では一家の生計を支へるに足りなかつた。古來、百畝が最低生活維持の基準と考へられて居たのである。そして四十畝には無論税が課せられて居た。河夫の主要な仕事であるひき船の事は、前にも述べたが、殊に簡楚におどかされつゝ従事する立場であつて見れば、一層辛かつた。

河夫とならぬ者でも、臨時に徴發される事が少なくなかつた。元の趙文昌の孟陽泊石記に、水が淺くなると民が挽船に使はれて困ると記されてゐるが、又修理に備はれた事例も多かつた。この修理は總て地方民の負擔であつた。

つて、河銀と稱して一般から徴集した金によりその費用を賄ふのであつた。修理に必要とする物資も又強制買上であつたが、柳その他材木は山東には元來乏しいのであつたから、割當せられて非常に困つたのである。

間接的な事は更に重大な問題があつた。山東のこの地方は水が少く且悪いのであるが、加ふるに主要な河川と滙泉とを運河に獨占されては、農業經營上の大障害となつた。止むなく井戸水に頼つたのであつて、今でも驢馬に水を汲ませて灌漑を行つて居るのだが、この地方の田園風景である。或者は私費を投じて公共用の井戸を掘つた。義井と言ふ名で呼ばれるこの種の井戸の多い事は、運河に抑へられた民衆の、反動的精神による自活の方法の表現である。だが、豪族等はこんな消極的方法に甘んぜず、湧泉の水を侵奪するに至り、官との間に水の鬭争が演ぜられて、政府は度々これに對する禁令を出さねばならなかつた。

TRADE MARK REGD.

腸浣クジチイ

便痢と便秘に

お手供機病氣の腹急手當に直ぐ役立つ
便秘やお子様の消化不良の應急手當には浣腸が第一です
お宅で簡易に完全な浣腸が出来る
浣腸器不要 副作用無し

大人用 小人用 特大人用

御近來同種品あり注意 明袋入イチジク印と御指定御求を乞

東京・大阪 イチジク製藥株式會社

山東に因む劇

石原巖 徹

春秋戰國の時代の山東即ち齊魯の地は名君賢相輩出し種々の史譚に富むのであるが、何故か劇に作られたものが少い。山東に因む劇としては唐時代及び宋時代の綠林の豪傑趣味に基くものが多いやうである。水滸傳の梁山泊が山東にあつたことになつてゐるのも、或は古來この地方が綠林の本場であつたとゆうことを物語るのではないかと思ふ。その方の研究は別の機宜に譲るとして、以下山東に因む劇に就て述べることにする。

「黄金臺」

この劇名は支那劇によくある例の通り、實際演ぜられる劇の内容とは殆ど係が無い。戰國の代の齊の末期湣王とゆう時君が姫妃とゆう悪質の女の色香に溺れ、それと氣脈を通する悪宦官伊闢立を寵用して、朝政は彼等の意のままに操弄された。こゝに齊の太子田法章なる者、賢明の譽高く正道をふんで彼等の専横を監視し、ために眼中の釘

となつた。そこで彼等は太子を除かんとして、太子が姫妃に對して不倫の舉動に出たと王に讒言し、王の命に依つて太子を捕殺しようとする。それを知つて太子は逃げることを王の一族の豪傑田單に救はれた。劇はこゝから始まる。伊立は太子を捜索に歩いて田單の家に赴き取調べるが、田單の奮計で太子を女裝させ彼の妹だと言つて伊立を欺く。女裝したぐらゐでは直に看破できる筈と思ふがとにかくさうゆう話になつてゐる。伊立が失望して出て行つた後、田單は後難を恐れて太子を伴つて齊の都(臨淄)を逃れ出し即墨に走る。とゆうところまで、劇は終となつてゐる。この劇の主役は田單(金生)で、その唱が聴きものである。また伊立の役は花臉(取取役)で敵役としてのどくにくさが出ればならず、田單に劣らぬ重要な役であり、若し老生と花臉の名優二人を得れば、この劇は簡單な劇にかなりみこたへのあるものになる。

この物語の後日譚は、燕の樂毅が討齊の軍を起して所謂「一日にして齊の七十餘城を下す」とゆう大戦果を挙げ、湣王をはじめ伊立姫妃等の奸物は悉く滅されてしまふが、最後に田單が木曾義仲の先輩として火牛の陣を以て燕軍を撃破し、太子即位して齊室中興の基を開くとゆうことになる。劇名の黄金臺とゆうのは、燕の昭王が天下の賢士を集めるために設けたもので、樂毅は最初、齊に行つて伊立に嫌はれ、燕に走り黄金臺に入つたのであり、若しこの劇が樂毅を主役とするなら黄金臺も好からうが、今日實際に行はれてゐる劇は上掲の通りであるから名實不符と言ふ外はない。又この劇の別名の内「田單救主」「搜府盤關」は好いとして「樂毅伐齊」は同様名實不符である。尤もこの劇の物語が本来樂毅を主人公とした「黄金臺傳奇」とゆう小説から出た關係上さうしたのだとの考證もあるが、それにしても依然贊成し難い、むしろ田單が主役なのだから「火牛陣」とてもしたが方が適切であらう。

なほ書き落したがこの劇のもう一つの見せ場は田單が太子を伴つて逃げる時、城門で伊立の配下の役人に捉まつて調べられ、種々問答の上錢をつかま

せて虎口を脱するとゆうくだりであつて、支那の小役人氣質を支那劇一流の道化役(丑角)を以て痛烈に諷刺する演出法を取つてを、支那人氣質研究上極めて興味深いものである。

「賣馬」

唐の太祖及び太宗を輔けて大唐帝國の基を固めた功臣中には綠林の豪傑が非常に多い。綠林の云ふのは必ずしもサクザでないが、性質上綠林の豪傑運と交遊したり、或は綠林通から敬愛されてゐたやう種類の人物が多いからである。その筆頭が秦瓊字は叔寶、歷城縣(今の濟寧)の人である。この人は尉遲恭(敬德)と共に唐の二大功臣として、正月の門に貼る「門神」のモデルにもなつてゐる。門神の顔の黒い方は尉遲恭、黒くない方が秦瓊である。この人達の事蹟を大衆小説化したのが「隋唐演義」で、それから取材した劇は種々ある。その最も有名なのが賣馬(或は當銅賣馬)である。

隋の末期、秦瓊は歷城縣の郡頭とゆう役(一種の警官)を勤めてゐた時、盜賊十八名を捕へて天堂州(今の何處か不詳)とゆう處へ護送して行つた。途申賊の一人が死したために、書類

